

ハスモンヨトウ情報第2号（ダイズ）

令和8年9月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

フェロモントラップの誘殺数が多い地域があります

1 発生状況

ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける直近1か月の成虫誘殺数は、過去10年間と比較して、安城市は最も多く、西尾市は2番目に多い状況です（図1）。また、豊田市は4番目に少なく、弥富市は最も少ない状況です。

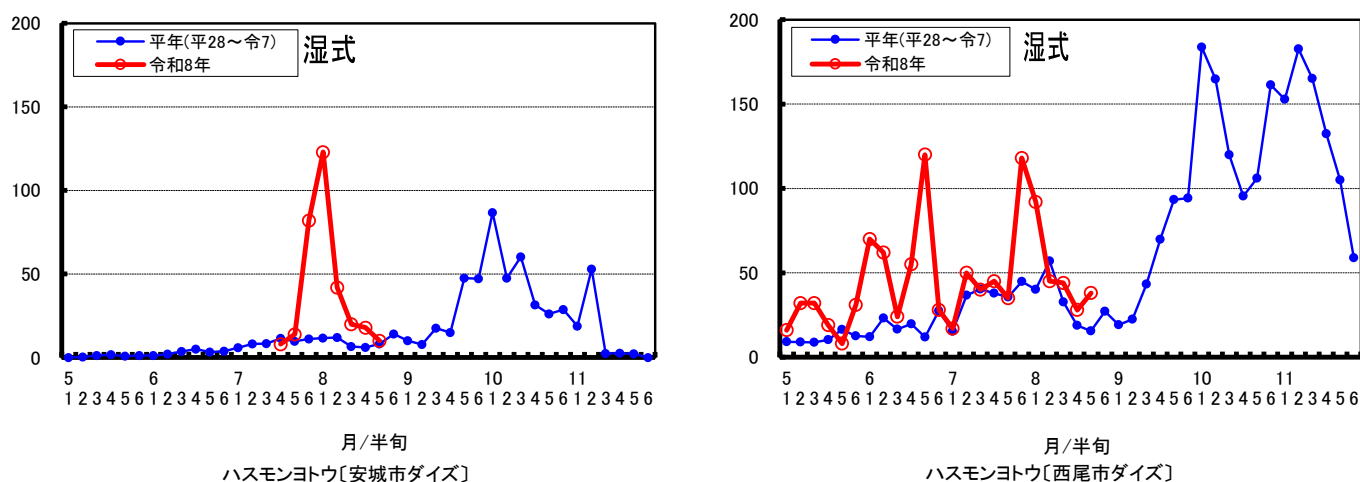


図1 フェロモントラップにおける成虫の誘殺状況（単位：頭）

2 今後の見込み

名古屋地方气象台8月27日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と見込まれています。本種の発生に好適な条件が予想され、今後、発生量が増加する可能性があります。ほ場を観察し、ダイズの白変葉（図2）や幼虫（図3）を確認した場合は速やかに防除しましょう。

薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同じ系統（作用機構）の薬剤は連用しないようにしましょう。中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。

また、ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける直近1か月のシロイチモジヨトウ成虫誘殺数は平年並ですが、8月第3半旬に成虫誘殺数のピークを迎えており、今後はほ場において幼虫が増える可能性があります。ハスモンヨトウ同様に食害痕や幼虫を確認した場合は防除しましょう。



図2 ダイズの白変葉



図3 若齢幼虫が葉を集団加害する様子